

## 事務所の歴史

後藤隆徳

山の会に限らず、サークルの運営で難しいのが、①事務所の確保 ②印刷物の印刷 ③会員拡大、である。

幸いわが会は②、③は順調だ。問題は自分たちの力で、なかなか解決できない事務所である。

事務所は、サークル活動の生命線。事務所を持ってないサークルは、母港のない船と同じで、地域に密着した活動は出来ない。つまり、登山でいえば、事務所は、ベース・キャンプで活動の拠点なのだ。

主な目的は、会議・打ち合わせ・集会・学習会・交流会などと、装備・書籍等の保管である。

そして、事務所があることにより、一週間に一度、誰に気兼ねすることなく仲間と大いに「対話」が出来る。これは、幸せなことである。



事務所は、公共の施設を使えなくはない。しかし、それらの施設は、使用日時が限られ、定期・定時・不定期の使用が出来難い。

おまけに、税金で賄われているにも関わらず、ナンダ・カンダと制約が多く、辟易（へきえき）する。

かつて、長く三島労山で活動したが、ここでも事務所には苦勞した。25年前、最初の事務所は三島二日町の「あかつき荘」というアパート。一階の一番奥の全く陽が当たらない4畳半でトイレが圧巻だった。

一度同じアパートの二階に引っ越し、アパート建て直しのため、一緒にやっていた「みちくさハイキングクラブ」の会員が借りていた清水町の一戸建てに移った。

二年位いたが、県連の「山の娘のつどい」をハデにやり、大家のヒンシュクを買って、三島駅近くの「三島荘」というアパートに引っ越した。

ここもまた全く陽が当たらない、ジメジメした部屋。時々、ゴキブリが徘徊する。当時のトイレは共同で、絢爛・豪華・壮絶・絶句・昏倒した。

会員が増えて手狭になったので、隣の六畳に移ったのも束の間、ここも建て替えて、今度は南町の東京電気近くの「第二風間荘」というアパート。

しかし、ここは刺青・坊主頭がウロウロし、壁はペラペラ。大声で笑うとケリが入り、怖いアパートだった。

そして、やっと現在の事務所に落ち着いた。25年で実に六ヶ所である。



裾野麗峰も創立時の94年3月から6月まで、裾野の「水道会館」が事務所だった。そこには、ちょっと意地悪なオバさんがいた。雨の日、汚れた靴で事

務所に上がった角でトラブル。7月から大橋医院の大橋ビルに移った。

その大橋ビルも、「水道会館」にいた、ライオンズ・クラブが押しかけ、やがて裾野市海外交流事務所が入り、96年12月「大橋病院」3階に引っ越した。しかし、ここも今年の裾野市長選挙で、後援会事務所使用のため、一時的に「1月まで」の約束で出された。

だが、約束は反故（ほご）され、再び病院には戻れなかった。引き続き、後援会事務所が使用するから、余所を捜してくれと言われた。裾野市の長である市長のおひざ元で、約束は守られなかった。

所詮、地元で活動する文化とスポーツ・サークルを守り育てる気概は無かったのである。家賃も少ないが払っていた。口約束とは言え、一応一年契約だった。いい加減な対応に、怒りは収まらなかった。



今回、秋山和子さんの尽力と、家主・植松宗俊さんの厚意で新しい事務所を、何とか確保できた。有難いことである。しかし、事務所では今後も苦勞するだろう。

結論的には「自前の物」か「自前の物に限りなく近い物」でなければ、常に事務所確保の不安はつきまとう。

先日、沼津の学園通りに六畳のログハウスが300万位で販売されていた。土地を何処かに借りれば、こんな事務所も楽しいと思う。狭いながらも楽しい我が家。いつか実現させたいものである。



結局、下長窪の「みんなの家」は、1997年1月から2009年9月まで12年間、お世話になりました。考えてみれば、ここはよい事務所でした。植松さんが元気な頃は、お願いすれば水曜日以外も使用出来て、飲み会・宿泊交流会など、楽しい思い出があります。

植松さんと私は同じ会社に勤務していました。植松さんの退職前数年間は同じ職場で机を並べていました。会社では、「ゴッちゃん、ゴッちゃん」と可愛がって貰いました。

植松さんが元気な頃は、例会時、早く来る私がよく自宅に鍵を借りに行きました。いつも、時間的にちょうど夕食でしたが、嫌な顔もしないで、「ここにあるから持って行って」と、優しく対応して頂きました。

亡くなる年の夏、用事があって事務所に行った時、庭の芝生に植松さんが立っていました。「こんにちは、元気～イ？」って声をかけた時、ひどく疲れた顔をしていました。亡くなったのは、その秋でした。

あんな頑固で強靱な体躯のヘラクレスみたいな「宗ちゃん」が、簡単に逝ってしまったことに、大きな衝撃と言いやうのない寂寥感を覚えました。「宗ちゃん」長い間、本当にありがとうございました。

(2009.10.15)

\*この原稿は、98年3月、「れいほう」NO. 51に掲載された「等高線」に加筆し再掲載しました。